

彫刻

応募点数	18点	招待作品	6点
入賞点数	6点	展示点数	24点
入選点数	12点	◎は移動展出品作品	

(総 評) 本年は出品数が18点で、ほぼ例年並みでした。全体的には小品が多く、作風が穏やかで落ち着いた展観になったように感じました。自身のテーマに継続して取り組んだ若い人の意欲作もあり、県民の展覧会の趣旨が何となく表出されているように思います。

審査にあたっては、発想のオリジナリティはもとより、技術的な熟達、気力の充実などに目を向けて評価する方向で審査しました。その結果、今回は残念ながら最高賞である知事賞には、該当作は見いだせませんでした。金・銀・銅の各賞の作品については、審査評をご一読いただき、鑑賞の参考にしていただけたらと思います。

(文責 山岡 弘廸)

金 賞 ◎

Family Arch

尾 添 昇 (出雲市)

作者は長年Familyをテーマに抽象的表現に取り組んでこられました。本年の作品は、主題を明確にする彫刻的な構成、全体と部分の関係、効果的な省略、単純化など、造形的な追求が感じられます。作者のFamilyへの思いが、的確に表現できたのではないかと感銘を受けました。石膏の削りや磨きの仕事も緻密に進められています。

(文責 山岡 弘廸)

銀 賞 ◎

実り広がり

立 花 航 (江津市)

今年の作品は、テラコッタという新しい素材を試行錯誤しながら制作されました。植物の種子のイメージで、種子の持つ生命力の強さを感じさせる作品となっています。作者の意図しなかった空間表現も生まれてユーモアを感じます。(文責 山岡 弘廸)

銀 賞 ◎

三界に家なし

山 崎 恵 美 (松江市)

「女三界に家なし」の言葉に、年来のさびしさに光明が差し、さびしさを乗り越えて自分自身の本来の人生を生きていこうとする心情が生まれました。自分なりの生きる道を形に表そうと試み、光明に向かう者の姿を立体に表現しようとした労作です。

(文責 山岡 弘廸)

銅賞 ④ おかあさんのおなかのうえであそんだ ^{おお たに こう いち} 大谷江一 (出雲市)

題名どおりの母虫と幼虫のかわいらしさを、ユーモラスに表してあります。粘土の手びねりの技を生かし、世の中にある様々な親子関係を風刺しているようです。うごめきが伝わってくるかのような形態から、不思議な世界が想像されます。

(文責 山岡 弘勉)

銅賞 ④ ^{ふく わ} お福分け ^{さ さ き} 佐々木 ^{たかし} 孝 (浜田市)

収穫を喜びお祝いするお正月の空気が伝わって、家族などのあたたかい心根が感じられます。ネズミのかわいらしいしぐさの一つ一つは、ユーモアのある物語性を生み出しています。楽しみながら制作されたのが伝わってきます。(文責 山岡 弘勉)

銅賞 ④ ^{せ かい へい わ} 世界平和の祈り ^{あ ごう} 吾郷 ^{かおる} 薫 (大田市)

作者は「人々の世界に平和あれ」と常日頃思索を進めておられ、身の回りの自然物に対してやさしい心で見つめ、作品として表現されています。その心は、造形上の組み立て、配置や彫りの穏やかさに表れているように思います。(文責 山岡 弘勉)

入選

	題名	氏名	備考
	収穫	立花 航 (江津市)	
④	おすまし	佐々木 柳子 (江津市)	
	思い出の渚	稲村 守泰 (松江市)	
	春の光	佐藤 信光 (安来市)	
	野佛	佐藤 信光 (安来市)	
	17歳	大畑 敬 (松江市)	
	仰ぐ	奥村 和久 (松江市)	
	初夏の人	岩山 涼 (奥出雲町)	
	夏の貝	周藤 有希野 (雲南市)	
	夏の思い出	岡 愛梨 (出雲市)	
	朝(あした)	高橋 由美子 (出雲市)	
④	酔猿鬼	鈴木 祐司 (益田市)	

招待

	題名	氏名	備考
㊦	魚	井上博 (松江市)	
㊦	風にきいた日	松本健志 (出雲市)	
㊦	和む	田中俊晞 (江津市)	
㊦	父	山岡弘廸 (出雲市)	
	雫	近田裕喜 (安来市)	
㊦	夏の光	伊藤眞美 (出雲市)	